令和6年度健康長寿ふくしま会議 議事概要

1 日時等

令和7年3月26日(水) 13:30から14:10
ウエディングエルティ1階 スクエアルーム北

2 出席者

別紙出席者名簿のとおり

3 知事あいさつ

令和六年度健康長寿ふくしま会議の開会に当たり、御挨拶を申し上げます。

本日は年度末の大変お忙しいところ、御出席を頂き、誠にありがとうございます。また、皆さんには、日頃から、本県の健康づくりの推進に格別の御尽力を賜り、心から感謝を申し上げます。

健康長寿ふくしま会議は、オールふくしまの体制で、県民の皆さんの「健康寿命の延伸」や「健康格差の縮小」に取り組んでいくため、平成三十一年三月に設立いたしました。

これまで、地域保健と職域保健の連携を強化し、健康づくりの取組等について共有を図りながら、一体的かつ効果的な情報発信や普及啓発などを実施してまいりました。

また、今年度からは「第三次健康ふくしま21計画」がスタートし、「みんなでチャレンジ!!減塩、禁煙、脱肥満」のスローガンの下、県民の皆さんお一人お一人の生活習慣の改善や生活習慣病の予防等の取組を進めております。

今後、本県の健康づくりを更に推進していくためには、県はもとより、県民の皆さんを始め、市町村や教育機関、関係団体、企業等の皆さんが共にその推進の主体となり、実効性のある取組を協働して実践することが必要であり、その中核を担う本会議の役割は大変重要なものとなっています。

本日の会議では、昨年十二月に国から「健康寿命」の最新値が公表されたことを踏まえ、計画の一部改定のスケジュールについて協議をさせていただきます。

さらに、今年度における県や各団体の取組実績について共有し、次年度の取組方針等について、皆さんと意見交換を実施することにより、オールふくしまで健康づくりに取り組む気運を一層高めていきたいと考えています。

県といたしましては、これまでの取組を継続・強化していくとともに、次年度からは、新たに女性の健康づくりや働きやすい職場づくりに取り組む企業への奨励金交付、メディア等を通じた情報発信等を行うことで、女性が健康的に活躍できる地域社会の実現を推進してまいります。

引き続き、委員の皆さんの御協力を頂きながら、更なる取組を展開してまいりますので、本日は、是非、忌憚のない御意見・御発言をお願いいたします。

4 議事

(1) 協議事項(1)「計画の一部改定に関する事」①「健康寿命の最新値」について

○資料1より、3年おきに国において算出している健康寿命について事務局から説明。

昨年12月に公表された最新値となる令和4年値の結果によると、最も重要な

施策目標としている県民の「健康寿命」は男女とも短縮、全国順位も低下した。全国的にも短縮した都道府県が多く、国の専門委員会では、「今後の健康寿命と不健康期間の算定を待って、COVID-19の影響を見極めることが重要である。」との意見もあり、県としても今後の推移や国の評価・分析等を確認してまいりたい。
○各委員から意見・質問等なし

(2) 協議事項(1)「計画の一部改定に関する事」②「計画の一部改定のスケジュール」について

○資料2より、健康寿命の最新値や今後公表予定の国民健康・栄養調査の大規模調査の結果を踏まえ、令和7年度に、計画の目標項目の現況値を本計画の開始初年度である令和6年度の直近値に更新するとともに、この直近値を目標の達成状況を評価する上での基準となる基準値として設定する計画の一部改定を実施する方向について事務局から説明。

○各委員から意見、質問等なし

(3) 協議事項(2)「計画の推進に向けた取組に関する事」①「福島県の取組実績・取組方針について」

○資料3より、第三次健康ふくしま21計画の目標の達成に向け、「重点スローガンを設定、ロゴマークの作成」「健康長寿ふくしまトップセミナー」「ふくしま推しの健活フェスタ2024」「減塩・禁煙・脱肥満に関する取組」「令和7年度からの新事業」「健民アプリの構築」について事務局から説明。

○各委員から意見、質問等なし

(4) 協議事項(2)「計画の推進に向けた取組に関する事」②「各団体の取組実績・取組方針」について

○資料4のとおり、第三次健康ふくしま21計画の推進に関する各団体の取組実績と取組方針を記載。

○内堀知事から委員を指名し、取組方針や思いについて各委員が発言。

<各委員発言>

■公立大学法人福島県立医科大学 理事長 竹之下誠一委員

医大では、県に依頼された福島県版の健康データベース(FDB)の解析を請け負って、県民の健康状況を「見える化」し、データをもとに各市町村や地域の方々には何が足りないか、何をしなければいけないのかを実際に現場で伝える人材育成・研修を行っております。データの解析、人材育成を行い、笑顔あふれる健康長寿ふくしまに医大としての強みを活かして努力したいと思っております。

■福島県 内堀知事

データベースの作成、有用なものが出てきているのですが、とても膨大です。解析も専門的な部分もあって、市町村それぞれ県民指標の特徴が全く違うのですよね。浜通り中通り会津だけでなく、59市町村それぞれの違いがあるので、せっかく健康づくりをやるのならそれぞれの地域に合ったものを行なった方がより効果があるんじゃないかと思います。FDBは膨大で専門的なため、なかなか皆さんに伝わ

りにくいというところもあります。また医大と連携しながら市町村、関係機関の皆さまに分かりやすく伝えていくということに力を入れたいと思いますので、さらに連携をよろしく願います。

■一般社団法人福島県医師会 会長 石塚尋朗委員

「減塩・禁煙・脱肥満」の啓発活動を進めておりますが、次年度はさらにこの3つの柱は予防医療に繋がりますので、日常診療の中でまた学校医の先生には積極的に学校で啓発活動を行っていただく、また産業医の先生には職場での啓発活動を是非とも積極的に行っていただくという方針を今皆さまにお伝えしているところです。また団塊の世代の第二世代が75歳に向かっているところでフレイル、サルコペニアの問題が出てきます。その点も整形外科の先生と話を進めていきたいと考えているところがございます。また禁煙に関しては、タバコは依存症ですので吸っている人に分かってもらうように専門的な啓発活動を今年は始めていきたいと考えております。

■福島県 内堀知事

日常の診療の中で医師のひと言というのはすごく響くのですよね。それで先生方から県民の皆様にひと言添えていただくだけで相当効果が違うと思いますので、よろしく願います。またフレイルの問題も非常に重要でして、予防措置をしていった方が結果的により健康長寿に繋がるということと、だいぶフレイルは定着してきましたがまだ知らないという方もおられますし、「俺関係ない」と言う方もまだおられるので、だれが見てもフレイルは徐々に関わってくるんだということも啓発していく必要があります。そういったものも含めて医師会との連携を強めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

■日本労働組合総連合会福島県連合会 会長 澤田精一委員

連合福島の取組については引き続き健康長寿ふくしまの会員の一人としてしっかり発信していきたいと思っております。また連合福島として魅力ある職場、そして健康で生き生きと働き続けられる職場づくりを重要な課題として取り組みを継続していきたいと思っております。具体的に申し上げれば、一つには労働安全衛生の徹底です。やはり健康で働き続けるためには重要でありますし、今、やはり長時間労働が課題でありますので、36協定の締結を含めて長時間労働の是正に取り組んでいきたいと考えております。さらには、今ハラスメントも大きな課題となっておりますので、あらゆるハラスメントの対策を優先に、やはり健康で働き続けるためには重要な取り組みだと思っておりますので継続して取り組んでいきたいと考えております。さらには女性活躍ということでも職場での女性活躍の場をぜひ積極的に進めたいというふうに思いますので、ご理解ご協力をいただければと思います。

■福島県 内堀知事

県の新年度予算の中でも、働く皆さんの健康のための環境づくり、それに積極的に対応することが重要だということで、様々な予算措置をしております。

やはり一つ一つの職場が、健康経営、労働安全も当然大事ですが、より働きやすい健康的な環境をつくっていくということ、これは今働いて頑張っている現役世代も大事なのですが、加えて、若い世代が福島に地元に残って一緒に働こうと思ってくれたためにもすごく大事な要素です。

また、東京の大学を出られて、ふるさとに帰るかどうか考える時も、やはりこう

いった健康経営に企業・事業所・工場がしっかり関心を持っていただいているかどうかというものはかなりしっかりチェックされています。そういう意味でもこの働く場の健康に対する配慮が令和では当たり前だと思いますので、こういった点でも是非連合福島の皆さんと力を合わせて、現役の皆さんもこれから入ってくる未来の労働者に対してもより良い環境を作りたいと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

■福島産業保健総合支援センター 所長 中野新一委員

協会けんぽと協定を結びまして、県民健康の増進を図るということを進めたばかりであります。また医師会の会員でもありますし、医大とも関係がありますので、タバコフリーというキャンペーン等も一緒に実施していきたいと思います。また労働局等とも連携をしていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

■福島県歯科医師会 会長 海野仁委員

資料2に咀嚼良好者の割合の増加という項目があります。そこその数字ではあるんですが、これを踏まえて考えますと、笑顔でお話ができ、美味しくものを食べることができるということが健康寿命の延伸には非常に重要なことだと考えております。県民の皆さんがフレイルという言葉を知った時に、50歳代の方がほぼほぼ自分には関係がないお話だと捉えかねない。ですから私たちが盛んに患者さんたちにお話ししているのは、そういうことではない。フレイルを予防するのに、今のあなたがフレイルを感じる前に取り組んでいくことが大事だというお話しをしています。オーラルフレイルに関しましては、口の周りの筋肉、それから飲み込むための筋肉、そしてお話しをするための筋肉が全て上手く働くことがフレイルを予防していくことになっていきますので、歯科医師の方ではきちんと指導できるよう次年度以降進めて参りたいと思います。皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

■福島県 内堀知事

オーラルフレイルという言葉が出てきましたが、40代50代は他人事みたいな感じがどうしてもあると思うんですが、やはりその時代からケアしておかないと、結果的に年を取ったときに、自分の歯が80歳まで20本しっかり残っているかどうか、「8020」っていうのはやっぱり達成し得ないと思います。このオーラルフレイルも恐らく知っている方は結構熱心にやっていたいただいているんですが、一般の県民の方全体に浸透しているかということ、まだまだかなと思います。

今こちらの建物の前に8020番の車が停まっていて、歯科医師会の車だなど思いながら拝見していたんですが、やはり県も一緒になってこういった啓発活動をしていくこと、より県民の健康にとってまず大事な一歩だなどと思います。

■厚生労働省福島労働局 局長 井口真嘉委員

まずはメンタルヘルスの関係です。ハラスメントに関しては労災請求も増えていきますので、福島産業保健総合支援センター等と連携しながら対策をしっかり行っていきたいと思っています。それからもう1点、資料に書かせていただきましたけれども、県内が人手不足の局面にある中で、病気の治療を継続しながら働く方々、例えばがんであったり糖尿病であったり心疾患であったり、こういった方々が働き続けるためのガイドラインを作成しております。こういったところも県内企業

に周知啓発や働きかけをしていきたいと思っていますところでは。

■福島県 内堀知事

やはり我々が若者世代の県外流出の議論をする時も、やはりこの働く環境であったり、働きやすい環境を令和の時代に即して作っていかなくちゃいけない。おそらくあまり昭和や平成の時代にハラスメントという言葉は多くはなかったと思うのですが、もう今ハラスメントもたくさんあり過ぎて覚えきれないぐらいですよ。こういったことも含めて認識を変えていかなくちゃいけないと思いますし、まさに厚生労働行政の大事な一環だと思いますので、政府と連携しながら取り組んでいきたいと思っています。

■株式会社福島民報社 代表取締役社長 芳見弘一委員

弊社は県民の健康づくりというものを社業の柱にしているところであります。紙面等を通じて健康情報を県民に提供しているところでは。福島医大様のお力をお借りしてフレイル対策で一日一動、一日一回動こうというプログラムや動画で県民に情報を提供しておりますが、今日ここにご出席の各団体の皆さんと連携をもっともっと図って発信するのが我々の仕事ですので全力で取り組んでいきたいと思っています。よろしく願いいたします。

■福島民友新聞株式会社 代表取締役社長 野崎広一郎委員

私どもも県民の健康というのは重要なテーマとして、事業とともに市民を通じて啓発その他展開しているところではございます。弊社が力を入れているのがウォーキングでございまして、2024年度は11回の開催ということはもうほぼ毎月県内のどこかで弊社が関わるウォーキング大会を開かせていただきまして、合計で約6,800人の方に参加していただきました。

最近では事業所単位で申し込むという制度も取り入れまして、職場でも健康増進の一環としてそのウォーキングを利用していただくという、そんな試みも始めております。

先ほども減塩の話が出ましたけれども、私どももつい先週ですね、県立医大さんとの連携協定に基づいて、健康講座、これは会津の伝統野菜をテーマにドクターの方と栄養士の資格を持つ先生と会津の伝統料理の専門家そのお三方に来ていただいて講演会を開いたんですが、塩を使わなくても野菜や出汁の旨味を使えば十分美味しくできるんだよという話にかなりの方々が非常に興味高く聞いていただきました。

私ども来年度4月5日の福島花ウォークから当社の新年度のウォーキング事業をスタートさせまして、2025年も情報発信と各種事業で、県民の方々が楽しく健康増進に勤しんでいただける、あるいは健康の情報を学んでいただける、そんなことに力を入れていきたいと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

■福島県スポーツ協会 会長 北村清士委員

私どものスポーツ協会は加盟団体が100を超え、118の団体という大変大きな組織になりましたけれども、取りまとめを私どもがさせていただいております。

この中に競技団体がありますし、あるいは各市町村のスポーツ協会、そしてまた各学校の団体であったり、あるいは一方で障害者スポーツ協会等、幅広い方々に加

盟していただいているのが現状であります。

まず何といても、我々としてはやっぱり競技力向上もさることながら、スポーツを通して生涯にわたって健康に過ごしていただくというのを大きな狙いとして幅広く皆様方にご理解頂きながら、これまでも進めてきているところであります。ぜひ私どもいろんな問題を比較しながら進めているところでありますけれども、各競技団体あるいは各地域、地方公共団体等いろんな意味での働きかけをさせていただいておりますので、ぜひ積極的にご参加いただくということをお願いしたいと思います。

併せてこの場でお話しさせていただきますが、福島県の国民スポーツ大会、従来の国体ですが40台からようやく30台半ばまで入ってきているということであり、非常にそういった意味での皆様方のご理解が出てきて良い形になってきていると思います。それが結果として、健康長寿に繋がってくるかなと思いますので、引き続きご理解とご協力を積極的にお願ひできればと思います。よろしくお願ひいたします。

■福島県 内堀知事

ありがとうございます。スポーツ特に生涯スポーツという観点は健康づくりと非常に密接に関係した部分がありますし、また頑張っている選手を応援することも我々自身の健康に繋がるなと思っております。恐らく皆さん連日聖光学院が頑張っている姿を見てすごく感動しながら元気をいただいている部分があるかなと思います。

スポーツを頑張っていて選手が活躍すること、また我々自身一人一人が生涯スポーツをすること、頑張っている選手を応援すること、これら全体が健康づくりにプラスされるかなと思いますので、ぜひまた協会のお力添えもよろしくお願ひいたします。

■福島県食生活改善推進連絡協議会 会長 菅野一代委員

私たちは県の食の基本推進事業と連携し、各市町村において健康課題の減塩、栄養バランスのとれた食事、世代ごとの食生活、および改善、食文化、郷土料理等を家庭の中から、そして地域へと社会参加も含めて活動しております。これからもがんばってまいります。

■国立大学法人福島大学 学長 三浦浩喜委員

資料にも記載させていただいておりますが、人間発達文化学類のスポーツ健康科学コースというところが中心になって地域の中に入って、高齢者への運動教室とか参加できるスポーツイベントを実施して参りました。特に学生たちが主体的に入って高齢の方や子供たちと積極的に触れ合っていたことが特徴と感じました。ここに記載はしていませんが、行政政策学類では中山間地域の中に入って、高齢者の健康維持に関して医療機関と連携したシステムをどういうふうに関発していくか、そういった研究をしていらっしゃる研究者もおりますので、総合的な健康増進を本学としても取り組んでまいりたいと思います。

■福島県 内堀知事

学生さんが実際に世代を超えた交流をしながら取り組んでいると思います。あるいは中山間地域等に入っただいて、その地域の年配の方々と一緒に交流をしながら、お互いに理解し合う、あるいはいろんな作業をする、これによって体

の健康と心の健康、あとお互い世代間交流といういろんなプラスのメリットがあるろうかと思います。ぜひ可能な範囲で結構なのですが、そういった取り組みを継続していただければありがたいと思います。

※以上で予定時間となったため終了。

■福島県 内堀知事

今日の会議を契機としまして、来週から新しい年度となりますが、改めて我々一丸となって県民の健康づくりに取り組んでいきたいと思ひます。皆さん本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。

以上